



今年8月に開催した地域連絡会「魚沼市における障害者サービスの多職種連携」でお寄せいただいたご意見やグループワークでの質問内容について、皆様にご報告いたします。

## 質問

〈障害者基幹相談支援センター様より回答〉

①新潟県の相談支援体制ビジョンの中の基本相談支援とは具体的にどのようなものか。

**回答：**計画相談支援とセットの位置づけの相談支援事業という認識でよい。サービスにつながるまでの、申請前の支援と考えてもらえばよい。

②相談員1人が担当している件数はどれくらいか。

**回答：**1回/月の連絡会での状況報告によると、サービスにつながっている人の計画相談支援、つながっていない人の相談支援合わせて70～80人以上/人。人によっては100人以上という方もいる。



③サービスの利用状況、サービスにつながっていない件数はどれくらいか。

**回答：**ヘルパーのニーズも高くなってきているが資源不足。山奥で行けないなど地域柄、支援と調整が難しくなっている。サービスを使いたいが、ニーズに対応できず、つながっていないなど相談あり苦労している。相談支援が複雑化している。

④資源が不足しているというがグループホームなど市が中心に設立促進はしていないのか。

**回答：**現状どこも満杯。増やしていきたいところではある。空き家をリフォームし利用につなげている。県からもグループホーム設立の補助金制度もあるが、すべてが受けられるわけではない。一昨年、守門地区にある「GHまたたび」はこの制度を受け開設した。

⑤介護保険ではマンパワー不足が大きな問題になっている。障害の方でもマンパワーはどうなのか。

**回答：**介護は昨年、障害分野でも今年4月からマンパワー不足が問題になっている。人材の確保支援として、市では人材確保PRに向けての支援金、キャリアアップ・資格取得のための補助、夜勤手当の補助金等6～7つの支援事業を行っている。申請は少ないが人材確保につなげていきたいと思っている。

## グループワーク

- ・介護と障害サービス担当者との情報共有・連携システムが乏しい。
- ・障害支援側から介護保険サービスへの移行に関し、理解が進んでいない。
- ・適用除外施設により、介護保険施設への繋ぎができない。
- ・高齢になると介護保険サービスの方がよい場合がある。
- ・介護保険と併用すると支援の幅が広がる。
- ・施設退所者が少ないため入所待機者が多い。
- ・障害特性を理解してほしい。
- ・障害者の通所サービスが少ない。
- ・相談支援専門員が担当している件数が多い。
- ・認知症なのか精神障害かがグレーで、受け入れ施設が戸惑う。
- ・障害施設入所者の高齢化。年齢層の幅（19～80歳）が広いため、同じサービスの利用が難しい。
- ・人員体制が整わないので個別対応が難しい。
- ・介護に係る時間が増えているため、若い年代の利用者に関わる時間が取れなくなっている。
- ・入院患者が施設に戻れるようにADLの維持や誤嚥性肺炎予防のためSTや施設職員と連携していく。
- ・透析患者の通院について、送迎サービスや支援者が少ないと感じる。通院できないと生存が心配。
- ・退院希望あるが、施設の職員体制により高床式住宅の送迎などが理由でサービスが利用できず、本人の意思が尊重できなかった。
- ・外来受診の同行者が患者について理解していない。病状や薬情報など分かるものがあるとよい。
- ・相談につながっていない人、心配な人は障害者基幹相談支援センターにつないでいきたい。また、地域生活支援拠点の体制づくりに期待したい。
- ・障害者施設を見てもらいたい。



## ～令和5年度 第2回地域連絡会のお知らせ～

令和6年1月12日（金）に開催予定です。引き続き「障害者サービスの多職種連携について」事例を用いた内容を考えています。詳細が決まり次第お知らせします。

## ～地域連携室新任あいさつ～



退院支援看護師  
涌井葉子

育児休暇明け、8月末から地域医療連携室に配属になりました。未熟なところが多々あると思いますが、患者やご家族の気持ちに寄り添えるよう、がんばりたいと思います。よろしくお願いいたします。



魚沼市立小出病院  
地域医療連携室  
TEL:025-792-2111(代表)  
FAX:025-793-7069(直通)